

19世紀にポーランドから欧州を席卷 ポルカの原点、農村マズルカが復活！

ポルカ (Polka) あるいはポルスカ (Polska) と呼ばれるヨーロッパのフォークダンス音楽。ウィーン・フィルのニューイヤー・コンサートでも必ず演奏されますが、これはその言葉通りポーランド (Poland) に由来しています。ヤヌシュたちはその原点である「農村マズルカ」を21世紀に復興し、民族音楽の世界で注目と尊敬を集めるカリスマ的存在なのです。

ヤヌシュ・プルシノフスキと仲間たち



ワルシャワの北に位置するムワヴァ (Mława) 生まれ。歌手の両親から地元の伝統音楽の教えを受ける。多くの楽器の演奏法を習得し、20歳の頃には演奏家として身を立てることを決意。ラテン・アメリカやバルカン半島、あるいはユダヤ音楽のレパートリーを広げる。

1990年代に民俗音楽研究家のアンジェイ・ビュニコフスキが撮影した農村マズルカの演奏風景を見て、雷に打たれたようなショックを受け、以来ワルシャワ南部の農村に通い、演奏から引退したという老人たちを説得し、彼らに楽器を持たせてライブシーンに引っ張り出したり、その伝統的な楽曲や奏法を若手に伝承する活動を展開。2009年に開始した「マズルカ・オブ・ザ・ワールド・フェスティバル」は現在では初回の5倍以上の観客動員数を記録するまでに成長。2010年代に入り、農村マズルカは伝統音楽ファンの若者たちの間でクールなものとして広まり、ヤヌシュはまさにその先駆として尊敬を集め、政府より文化勲章ブロンズ・メダルを受賞した。

現在ではポーランド国内にとどまらず、ポーランド由来で定着した北欧の伝統音楽「ポルスカ」とのコラレーション・ライブを行ったり、クラシックのピアニストと組んで、ショパンのルーツを探るコンサートを企画するなど、農村マズルカを知ってもらうため精力的な活動を展開。近年ではテレビ・ドキュメンタリーや映画にも取り上げられている。

バンドの編成について

ヤヌシュはフィドル(ヴァイオリン)を主として演奏するが、アコーディオン、小型のツインパロンの持ち替えも行う。チェロのように見える楽器は「ベース」と呼ばれ、楽器を高く担ぎ、弦をこするだけでなく、ボディを叩き打楽器的な役割も持たせている。ほかにトランペットや笛、そしてパーカッションが加わった5人編成。

宗次ホールのご情報はこちら！
フォローお待ちしております

♪ 随時
更新中



https://www.instagram.com/munetsugu_hall/



他にも各SNSにて情報発信中！

■交通アクセス
地下鉄栄駅⑫ 番出口より東へ徒歩4分



くらしの中にクラシック

宗次ホール
Munetsugu Hall

名古屋市中区栄4-5-14 〒460-0008
TEL:052(265)1715 FAX:052(265)1716
E-mail info@munetsuguhall.com
URL www.munetsuguhall.com

宗次ホールチケットセンター

営業時間:10:00~16:00

※13:45以降に開演の公演がある場合は18:00まで営業